

各都道府県ならびに政令指定都市エイズ対策担当課長 御中

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
「エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究」研究分担者
九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野
平賀 紀行

各地域での HIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染者・エイズ(後天性免疫不全症候群)患者に関する動向調査情報ならびに施策実施状況等に関する調査のお願い

【本研究の目的】

- ・ HIV 感染者・エイズ患者(以下、HIV 陽性者等という。)が全国平均より多く報告されている都道府県等(以下、重点都道府県等という。)の実施する施策について、各地域での発生動向、現状施策を横断的にモニタリングのうえ、各地域で取り組む効果的な施策等を各自治体間や関連団体等で共有し、各地域におけるエイズ対策の推進を図ることを目的としております。
- ・ なお、本研究は、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究」(研究代表者:四本美保子 東京医科大学臨床検査医学分野)の分担研究である「HIV 感染者・エイズ患者の集中する地方自治体における HIV 対策の横断的モニタリングと施策推進に関する研究」(研究分担者:平賀紀行)において実施されます。

【本研究により期待される効果】

- ・ 日本における HIV 感染は、これまでの東京を中心とする関東地域に加え近畿、東海ほか地方都市においても感染の拡大が認められております。
- ・ 近年、治療薬の開発が進み、早期に服薬治療を開始できればエイズを発症することなく通常の生活を送ることが可能となってきた一方、長期療養化に伴い、HIV 陽性者へのいわれのない差別・偏見等を背景とする医療施設等への患者受け入れ拒否といった課題も多く認められております。
- ・ 自身や周囲への感染を予防し、かつ、いわれのない差別や偏見をなくすためにも、エイズや HIV 感染症に関する正確な情報を知ることは当然であり、個人における対策もさることながら行政が行う対策を充実させていくことが重要です。
- ・ エイズ予防指針第七には地方自治体の実施する施策のモニタリングと評価の重要性が明記されておりますが、本研究はその趣旨に則り、重点都道府県等より収集される動向調査報告ならびに各地域における施策情報等を収集・分析し、日本を3地区に分けた各地区における地区別重点都道府県会議を開催・意見交換を

行い、その結果、各地域のエイズ施策を推進し、厚生労働省所管課に対する施策提言に資する研究となるものと考えられます。

【本研究における調査内容】

本研究における調査内容は、以下の3項目により成り立っております。

➤ モニタリング項目 1

- ・ HIV感染者・エイズ患者新規報告数(2022年～2024年)・国勢調査人口(直近のみ)(都道府県の報告数はエイズ動向委員会で公表済みのものを使用します。政令指定都市等の報告数について調査を希望します)
- ・ HIV検査件数:平日・夜間・休日・迅速・郵送(2022年～2024年:それぞれの検査件数ならびに陽性件数)
- ・ エイズ対策に係る計画:策定の有無、有であればその資料(直近のみ)
- ・ エイズ対策推進協議会:開催の有無、有であればその資料(直近のみ)

➤ モニタリング項目 2

- ・ 普及啓発および教育についての課題と対応策(特に青少年、MSM、外国人、性風俗産業従事者、薬物乱用・依存者等)(直近のみ)
- ・ 検査相談体制についての課題と対応策(直近のみ)
- ・ 医療提供体制について課題と対応策(中核拠点病院選定、病院連絡協議会開催、研修計画等)(直近のみ)
- ・ 地域特有の課題とそれに対する対応策

➤ モニタリング項目 3

- ・ エイズ対策推進事業実績額(普及啓発および教育、医療提供体制の再構築)(直近3年間)
- ・ 特定感染症検査等事業実績額(保健所等におけるHIV検査・相談事業)(直近3年間)
- ・ これまでの実績を考慮した今後の施策や予算要求の考え方
- ・ エイズ施策全般に対する厚生労働省事務局への要望等自由記載欄

【本研究への参加の可否ならびに情報の公開について】

本研究に得られた調査結果等の資料は、個人情報保護等に支障がない範囲で公開することにより、今後のエイズ施策推進ならびに後続研究の質の向上に貢献したいと考えております。よって、本研究への参加に関しその諾否をご選択いただき、諾と

してご参加いただける場合は、提出いただく各資料を公開可能な資料としてご準備いただくよう、ご留意をよろしくお願いいたします。

各資料の閲覧を希望される方は、本研究班事務局宛にご連絡いただくか、以下のホームページにおいて順次公開資料として掲載しますので、当該ホームページをご参照のほどよろしくお願いいたします。

名称:HIV 陽性者の集中する地方自治体における HIV 対策の横断的モニタリングと施策推進に関する研究

URL : <https://hiv-ppr.jp/topic-hiraga.htm>

【本研究の情報の二次利用について】

本研究に得られた調査結果等の資料は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、同意がいただけるならば、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていただきたいと考えております。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

以上、各項目の調査をお願いすることにより、通常業務を多忙にさせることは十分存じ上げておりますが、上記の趣旨を鑑み、本調査にご協力いただけましたら幸いです。重ね重ねどうぞよろしくお願い申し上げます。

【連絡先】

九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野

平賀 紀行

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

TEL:092-642-5603 FAX:092-642-5618

E-mail: hiraga.noriyuki.550@m.kyushu-u.ac.jp

重点都道府県等調査票

都道府県市名： 岡山県

本研究への参加に同意する …… 諾 …… 否

※参加いただける場合には「諾」を○で囲み、以下の調査にご回答をお願いします。
参加が困難である場合には「否」を○で囲み、以下に回答されることなく本研究班事務局に本調査票をご返送ください。

本研究以外での情報の利用について …… 諾 …… 否

※提供する情報が将来新たに計画・実施される医学研究に、倫理審査委員会の新たな承認の後、使用されることに同意いただける場合は「諾」を○で囲んでください。

【返送先】

九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野

平賀 紀行

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

TEL: 092-642-5603 FAX: 092-642-5618

E-mail: hiraga.noriyuki.550@m.kyushu-u.ac.jp

【モニタリング項目 1】

HIV 感染者・エイズ患者新規報告数(2022 年～2024 年)

※岡山県(岡山市・倉敷市を含む)報告数

	2022 年	2023 年	2024 年
HIV 感染者(人)	3	3	4
エイズ患者(人)	3	2	4
新規報告数合計(人)	6	5	8

国勢調査人口(直近:R2 年 10 月 1 日): 1,888,432 (人)

岡山市:724,691(人)(38.4%) 倉敷市:474,592(人)(25.1%)

HIV 検査種別検査件数・陽性件数(2022 年～2024 年)

	2022 年	2023 年	2024 年
平日検査件数(件)	289	558	588
うち陽性件数(件)	0	0	1
夜間検査件数(件)	73	101	120
うち陽性件数(件)	0	0	0
休日検査件数(件)	13	29	19
うち陽性件数(件)	0	0	0
迅速検査件数(件)	93	379	395
うち陽性件数(件)	0	0	1
郵送検査件数(件)	0	0	0
うち陽性件数(件)	0	0	0

検査実施件数 合計 375 688 727

検査件数内訳

		2022 年	2023 年	2024 年
平日検査	岡山県	163	175	196
	岡山市	80	263	278
	倉敷市	46	120	114
夜間検査	岡山県	8	11	14
	岡山市	65	73	78
	倉敷市	0	17	28
迅速検査	岡山県	28(再掲)	14(再掲)	20(再掲)
	岡山市	65(再掲)	73(再掲)	78(再掲)
	倉敷市	13	29	19

エイズ対策に係る計画 策定の有無 … 有 ・ 無

※有であれば直近に策定された計画の資料の添付をお願いします

※以下の空欄に概要をご記載くださるか、添付でも構いません。

エイズ対策に係る計画を策定しているわけではないが、次のとおり「おかやまエイズ感染防止作戦」に基づき、エイズ対策を推進している。

岡山県では、平成 25 年度から、「おかやまエイズ感染防止作戦」と銘打ち、全国に先駆けてエイズ対策に取り組んでおり、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を 3 本柱とし、HIV 感染者の 6 割を占める MSM に対する啓発や検査をはじめ、潜在的な感染者に対する受検勧奨の取組を進めている。

(1) 受けやすい検査

- ・エイズ治療拠点病院(県内 10 か所)で、自己負担 1,000 円の即日検査、保健所で無料・匿名検査、MSM を対象に身近な診療所で自己負担 1,000 円の期間限定検査(クリニック検査)を実施している。
- ・R8 年度以降、郵送検査の導入を予定している。

(2) 戦略的な普及啓発

- ・MSM 関連団体(カラフルドットライフ、あうとぴーち等)と連携し、受検勧奨カードを関連商業施設やクラブイベント等で配布するとともに、SNS等を利用した情報発信に取り組んでいる。
- ・また、各保健所において、エイズ等出前講座をはじめ、HIV検査普及週間、世界エイズデーに合わせた啓発を行っている。

(3) 関係者との連携強化

- ・エイズ医療等推進協議会の設置、エイズ対策研修会の開催、針刺し後のHIV感染防止体制整備(予防薬の配備)、医療機関へのエイズカウンセラー派遣、歯科診療ネットワークの構築等により、関係者との連携を図っている。

参考資料:おかやまエイズ感染防止作戦推進図

エイズ対策推進協議会 開催の有無 ……有…無

※有であれば直近で開催された協議会の資料の添付をお願いします

※以下の空欄に概要をご記載くださるか、添付でも構いません

岡山県エイズ医療等推進協議会を毎年度1回開催している。

R6年度については下記のとおり。

日時:令和7年1月17日(金)18:30~20:00

場所:WEB開催

議題: (1)岡山県のエイズの状況について

(2)おかやまエイズ感染防止作戦について

(実績報告・針刺し事故に係るエイズ予防薬配置委託事業について)

(3)岡山県 HIV 歯科診療ネットワークの構築について

〈歯科診療ネットワークについて〉

R4年度にネットワークを立ち上げ、県内3割以上の歯科医院が参入しており、希望の地域で歯科受診が可能な体制が出来上がっている。紹介カードやシールを作成し、主治医の先生方を通して、安心して歯科受診いただけることを啓発している。

推進協議会 委員 :エイズ治療拠点病院(10か所)

県歯科医師会

県公認心理師・臨床心理士協会

県医療ソーシャルワーカー協会

岡山市保健所

倉敷市保健所

県保健所長会

疾病感染症対策課

【モニタリング項目 2】

普及啓発および教育についての課題と対応策

(特に青少年、MSM、外国人、性風俗産業従事者、薬物乱用・依存者等)

※以下の空欄にその直近の概要をご記載ください(別添資料あれば添付でも構いません)

○現状と課題

治療薬が進展し、エイズは適切な治療により症状をコントロールできる病気となり、エイズ患者は治療と社会生活の両立が可能となっているが、未だ有効な治療法がなく死に至る病であるとの認識が残っており、知識不足から生じる差別等の意識の解消が必要である。

(参考)人権問題に関する県民意識調査(R7年3月)

調査地域:岡山県全域

調査対象:県内全市町村から無作為に抽出した18歳以上の県民 3,000人

調査方法:郵送配布、郵送回収及びWEB回収

実施時期:令和6年8月1日～令和6年8月31日

(調査結果)

HIVに関する人権問題について、「差別的な言動」「交際や結婚問題での周囲の反対」「職場での不利な扱い」を見聞きしたことのある割合が前回調査(R1.8月)を下回り、「人権問題だと思うことは特にない」の割合が上回っていることから、差別や偏見の解消に向けて、一定の成果がみられている。

○対応策

おかやまエイズ感染防止作戦等の一環として、学校や地域の団体等へ専門講師や保健所職員を派遣し、エイズ等出前講座を行うことにより、エイズや梅毒等の性感染症に関する正しい知識の普及啓発を推進し、感染症の蔓延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的とし、エイズ等出前講座を実施している。

(実績)実施回数 R4年度 22回 R5年度 23回 R6年度 22回

検査相談体制についての課題と対応策

※以下の空欄にその直近の概要をご記載ください(別添資料あれば添付でも構いません)

○現状と課題

・保健所検査数はコロナ流行の影響を受け減少しており、徐々に回復してきているものの、コロナ流行前には至っていない。

(参考) 2011～2019年 平均 約 1,065 件

2020～2024年 平均 約 532 件

・岡山県内において、新任期にあたる保健師が増えており(入庁5年目までが約4割)、採血等業務に不慣れな職員が検査業務を担当することが多くなっている。

○対応策

以下の点について、今後検討していく。

- ・エイズ・性感染症予防指針で示された郵送検査の導入
- ・保健師の研修会の拡充

医療提供体制について課題と対応策

(中核拠点病院選定、病院連絡協議会開催、研修計画等)

※以下の空欄にその直近の概要をご記載ください(別添資料あれば添付でも構いません)

岡山県では、1回/年、岡山市倉敷市と共催し、「エイズ対策研修会」を実施している。エイズ対策研修会は医療従事者等を対象として、検査の促進、早期発見と治療等に関する最新情報を内容とした研修会としている。

R7年度は別紙とおり実施を予定している。

地域特有の課題とそれに対する対応策

※以下の空欄にその直近の概要をご記載ください(別添資料あれば添付でも構いません)

岡山県では、全国と同様に梅毒の感染者が急増していることから、梅毒と関連させたHIVの普及啓発に力を入れている。

例) AI インフルエンサーを活用した若い世代に向けた普及啓発の実施

クリニック検査においても、HIV 検査のみならず、梅毒検査とセットでの受検としている。

(参考:岡山県における梅毒発生状況)

岡山県の梅毒感染者報告数は、2017年頃から急増し、2022年まで170~200名程度で推移していたが、2023年は更に急増して316名と感染症法が施行された1999年以降最多となっている。2024年は更に増加して355名となり、2年連続で最多を更新している。

感染症発生動向調査によると、人口100万人あたりの報告数で、岡山県は2024年187.99(2025年3月8日時点)で全国3位となっている。

【モニタリング項目 3】

エイズ対策推進事業実績額(普及啓発および教育、医療提供体制の再構築)

(直近 3 年間)

※以下の空欄に実績額と地域特有の取り組み等あればご自由にご記載ください
(別添資料があれば添付でも構いません)

※県のみ(岡山市倉敷市を除く)

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
エイズ等出前講座	22 回	23 回	22 回
拠点病院検査	84 件	66 件	54 件
クリニック検査	53 件	51 件	51 件
カウンセラー派遣	42 件	33 件	24 件

特定感染症検査等事業実績額(保健所等における HIV 検査・相談事業)

(直近 3 年間)

※以下の空欄に実績額と地域特有の取り組み等あればご自由にご記載ください
(別添資料があれば添付でも構いません)

※県のみ(岡山市倉敷市を除く)

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
保健所通常検査	155 件	175 件	190 件
保健所迅速検査	18 件	19 件	18 件
保健所相談件数	413 件	448 件	423 件

これまでの実績を考慮した今後の施策や予算要求の考え方

※以下の空欄にご自由にご記載ください。(別添資料があれば添付でも構いません)

・保健所検査数をはじめ各種事業においてコロナ流行の影響がみられるが、近年梅毒患者が急増している状況をふまえ(梅毒に感染するとHIVに非常に感染しやすくなる)、引き続き「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3本柱に継続した事業を展開していく。

・また、エイズ・性感染症予防指針改定議論にも挙げられていることを受け、郵送検査の導入を検討している。梅毒や HIV 対策の施策を展開するにあたり、郵送検査へ行政が介入することで、より実態把握ができるとともに、様々な検査精度レベルの郵送検査が出回る中で、行政の勧める郵送検査として受検後のフォロー体制含め、安心感をもって利用いただけることが双方にとっての意義と考える。

エイズ施策全般に対する厚生労働省事務局への要望等自由記載欄

※以下の空欄にご自由にご記載ください。(別添資料があれば添付でも構いません)